

前号における同窓会の取材の中で、「安芸の国」という曲の存在を知った。それについてOBの方への取材を進めるうちに「総科音頭」や「総科節」という曲があることも伺ったが、時間の都合で、今回は「安芸の国」しか紹介するに至らなかった。

その後、引き続き調査を行い、2名のOBのご協力によって、今回「総科音頭」や「総科節」を紹介でき

30年以上前に作られたこれらの作品と当時の思い出が、時を越えて今よみがえる。

総科音頭、総科節の思い出

「ふたつの唄ができた経緯について、語って下さい。」

大学に入ったのは1977年ですが、当時はフォークとアイドル歌手の全盛期でした。

多くの若者が、芸能にかぶれていた。気の利いた人はギターを奏で、自作の歌をうたうのが当たり前の時代でした。私は楽器はまったくできませんでしたが、そのような風

染まっていました(笑)。それを見透かした、総科1回生のリーダー的存在だった田中伸武氏から、春季学祭で皆でアピールしようや、何か考えてくれないかと言われました。それでふたつの唄をつくったつもりなのですが、

もしかしたら総科節は11月の大学祭用にくったものかもしれま
も 30
も
前のことですし、どの局面でもアルコールが入っていましたから(笑)、あまり記憶にならないのです。

「とりあえず(笑)お作りになった?」

一晩もかか

も

節という唄をつくりました。その語句を入れかえるだけで良かったのです。ですから、あの時点でのオリジナルというわけではありまにすることができませんでした。それをして下さったのは田中氏です。振付も私のタイプを、マニュアル化して下さったのはです。従ってふたつの唄は彼の助力なくしてはあり得ませんでした。

